

## 短編競作を読んで あんな

### 五月の同行

読んで読んでも飲み込むことのできない感覚が残る。所々に出てくる表現、描写が何を意図しているのかきちんと理解できなかった。しかし何度も読んでしまう不思議な魅力のある作品だと感じた。

### スイッチ

冒頭の部分からどう展開していくのだろう、と読み進めたけれどそこから後半の部分に繋げていくのが唐突な感じを受けた。話口調が突然変わるもの少し気になった。走り出したはいいけれど迷走しているように見える。

### リセット

表現するのに難しい設定だと思うが読み進めていくうちに物語の中にちゃんと入っていくことができた。個人的にはもっとぐちゃぐちゃになっていく不思議ワールドが見たかった気がしないでもないけれど、枚数的に無理なのでうまくまとまっていると思った。

### 明け方の焰

文章自体すごくうまいという印象だけれどどこかチグハグな印象もあった。文体に作者の感情がうまく乗っていないような気がしたからかもしれない。しかし全体的に流れる静かなイメージは透明感があり、それが火のイメージを浮き上がらせているようでとても良かった。

### いざ起て戦人よ

出てくる人物のイメージは面白いと思ったが人数が多くて一人一人の印象が薄まっている気がした。学校での日常の様子は単調なようでいて読む面白さがあった。最後はもう少し盛り上げてほしかったと思う。

### 目覚め

ラストに向かってスピード感が増していき一気に読み進める快感があり面白かった。ちょっと放り投げるような語り手の態度も作品によく合っていた。とにかくラストのインパクトが強く、読後感が爽快である。

### 劣情に惑う剣

会話文や文体が緊迫感を出しているがそれが逆に幼く見えてしまった。もう少し冷静な目線で書かれている方が作品全体に緊張感が出るのではないかと思った。人物の息づかいは聞こえてくるのに惜しい作品と思う。

### 親子の敗走

良い作品だと思った。場面場面が印象的で立体的。短編の短さにテーマがうまくハマっている。文体が古めかしい感じだけれど自分は特に気にならなかった。単純に面白くよくまとまっている。

### 出来そこないのマリア

言葉のリズム感が心地よく、本来なら嫌気がさすような内容なはずなのに嫌みな感じがあまりせず読ませるのはうまいと思った。印象的な場面が多く、語り手の苦悩がよく伝わってきた。